

山名・山域	金精峠から根名草山を経て日光澤温泉～鬼怒沼・物見山・大清水へ下山
山行目的	秋の奥鬼怒・鬼怒沼を訪ねる
山行期間	2016年9月30日（夜行）～10月2日 夜行一泊二日
参加者	3名

ルート、コースタイム

10月1日 金精峠 0520—金精峠 0550—温泉岳（ゆせんだけ） 0630—新念仏平避難小屋 0720（時間調整）
新念仏平避難小屋 0820—根名草山（ねなくさやま） 0900—日光澤温泉 1105（泊）

10月2日 日光澤温泉 0640—鬼怒沼 0815—尾瀬沼分岐 0840—物見山 0900—湯沢出合 1020—大清水 1110

【紅葉の状況】

一日目の稜線が大凡 2200～2300m の標高で黄は色が出ているが、赤はこれからの状況。二日目は 2000m 程度で北面、南面の違いがあるものの後 10 日間程度か。ここにきて朝晩の冷え込みが強まった様でこれから見頃に向かうと思われる。

【金精峠から名草山】

天候は雨。雨具での出発になるが午前 7 時頃には回復の兆しが現れる。最初の 30 分は急登で始まる。峠からは尾根上の緩やかな登りを行く。ジグザグに高度を上げ、コマガの林で一旦平坦になった後僅かに登り温泉岳分岐を左に分ける。そこからは下りに入り、感じの良い笹原を抜ける。小さくアップダウンの後、沢に出る。橋で渡り直ぐ先の旧念仏平避難小屋跡地を右に見ながら 15 分の登りで新念仏平避難小屋に着く（水場は先程の沢）。小屋は木の香が残る新しい立派な建物で、冬季用に階上にも入口がある本格的な造りだ。10 人程度は充分宿泊できる。ここで時間調整の休憩を取る（日光澤温泉到着を 11 時以降にする為・・・チェックインは 13 時が基本）。1 時間後ほぼ雨も上がり快調に先を行く。根名草山頂上は東面のみ開けているがこの天気では展望はない。頂上から下りにかかる。樹林帯と涸沢のガレ場が交互に現れる中、落石、スリップに気を付けながらひたすら下る。傾斜が幾分緩くなり、手白沢温泉分岐を右に分けて、沢音が大きくなるのを励みに最後の下降に入る。赤い屋根の日光澤温泉が見え、裏手の登山口に降り立つ。11 時 10 分。かなり早い低姿勢で女将さんに到着を告げる。「部屋の準備が出来たら声をかけるのでそれまで温泉に入ったら」と暖かく迎えてもらい、交代で露天風呂に入る。温泉らしい白濁泉と茶色っぽい透明泉でゆっくりとする。露天風呂は 19 時から 21 時は女性専用となり、内風呂は男女別に二か所ある。美味しい食事と充分な休憩で翌日の英気を養い、21 時就寝。

【鬼怒沼から大清水】

鬼怒沼までの標高差約 700m を 1 時間 35 分でクリアして到着。尾瀬沼より 600m 高い。針葉樹の樹林帯が霧のなかに浮かんでいる。木道を行く。池塘というより池が点在する。草紅葉も鮮やかというか枯葉っぽい色で遠くまで続いている。取りあえず「一度は来ましたよ」というポイントを残し「尾瀬沼分岐」を左折する。物見山へは僅かな登りで頂上に立てるが、下降はアルバイトが必要だ。滑りやすい木の根と大岩が登山道を塞ぎ、歩くというより「飛び降りたり、尻セトしたり」でひたすら湯沢出合を目指す。沢の音が大きくなり、出合に到着。一本取って「冷たい水で顔を洗う」。林道を歩き大清水に 11 時 10 分着。11 時 55 分発のバスまで各々好きなように過ごす。途中戸倉の「鳩待峠バス連絡所」で下車し、温泉で汗を流した後 13 時 30 分発の沼田行関越交通バスで帰途につく。沼田—高崎—横浜と JR を乗り継ぎ 18 時 30 分過ぎ横浜に帰着する。お疲れさん。

以上